

令和4年5月18日(水)

(BSS) それでは、市長、よろしく申し上げます。

(上定市長) 初めに、今、私が着ております防災服の更新についてお話しします。もうすぐ出水期を迎えます。出水期とは、大雨、豪雨、台風等の襲来が想定される時期ですが、特に記憶に新しいところでは、昨年の7月から8月にかけて相次いで豪雨が発生し、大きな被害がこの松江市内でも発生しました。そのための準備ということで、まだ5月で梅雨入りはしていませんが、できるだけ早めの対策ということを市民の皆さまに注意喚起させていただきま。今回、防災服も、災害対応をできるだけスムーズにし、防災力を向上したいということから更新しました。従来の防災服は平成17年に導入し、その間、素材の技術なども進化しています。特に前回のものは生地が厚くて重く、夏は暑いことなどが懸念材料としてありました。今回、まずは本部長の私以下、本部の本部員51名の者について新しい防災服を導入しました。次に、出水期に向けてのお願いということで、「マイタイムライン」についてご紹介します。耳なじみのない言葉かもしれませんが、自然災害から自分の身を守るための行動の計画、予定表が「マイタイムライン」です。出水期を迎えるに当たって、ご家族で一度、自分が住んでいる場所からどう避難すればいいのかについて、改めて確認をしていただきと思います。皆さんのご自宅にお配りしている、「防災ガイドブック・ハザードマップ」や市ホームページに、このマイ・タイムラインの作り方を掲載しています。必ずしも松江市の様式でなくても、皆さんのほうでこういった行動計画を創っていただければと思います。作成するときには、雨あるいは津波が発生したときにどの程度、浸水するかをハザードマップで確認する必要があります。例えば0.3メートル、30センチ水がたまると車が浸水しエンジンが停止する可能性があります。0.5メートル、50センチであれば大人の膝の辺り、1メートルが腰の辺り、3メートルが大体2階の軒下、5メートルは2階の屋根以上ということになります。こういったことも参考にさせていただいて、ご自身のマイ・タイムラインを作っていただきたいです。作るだけではなく、それを活用して災害に備えることが大切です。マイ・タイムラインについては、ご家族と一緒に話し合っ行動計画を立てただければと思います。また、避難先となる公民館などを記入しますが、実際にそこまで歩き、自分の避難先はどこなのかということ一度確認してください。また、このマイ・タイムラインをお作りになりましたら、例えば冷蔵庫などご家族の皆さんが分かる場所、目に入る場所に貼り、日頃から目にとめていただきたいです。次に防災メールへの登録のお願いです。ご登録いただいている人にメールで情報を提供するもので、災害時には特に正しい情報と適切な避難行動が重要になりますので、ぜひご登録をお願いします。さらに、ツイッターでも防災情報を提供しております。こちらもぜひフォローをいただきたいと思います。「防災ガイドブック・ハザードマップ」の中にそういった必要な情報を掲載しています。お手元のもの最新版かどうか確認いただき、またお持ちでない方は本庁の市民課、各支所、お近くの公民館にも用意しておりますし、市ホームページにも載せていますのでぜひご覧ください。最後に、災害の恐れがあるとき、あるいは発生したときに、屋外スピーカーを使い皆さんにアナウンスをさせていただきます。今、屋外スピーカーでお昼の時間帯に新型コロナウイルスの感染対策について注意喚起のメッセージを放送しています。また、屋内告知端末で「おしらせ君」でもコロナについてメッセージを流しています。今後、出水期を迎え、緊急時、災害発生時に備えて、この新型コロナウイルスの感染情報の放送は、一旦終了させていただきます。なお、今日の11時には、J-ALERT、全国瞬時警報システムの全国一斉の情報伝達試験を屋外スピーカーを用いて行っています。繰り返しになりますが、昨年7月、8月の豪雨での経験、反省を踏まえ、早めの段階から

市民の皆さんと一緒に、防災対策を十分に整えてまいりたいと考えていますので、ぜひご理解の上ご対応いただければと思います。よろしくお願いします。

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種についてです。まず、ワクチン接種の状況についてですが、5月18日の8時半時点で、松江市の人口約20万に対して、3回目の接種を終えた方が53.5%となります。集団接種会場では、今月中もまだ予約ができますので、ぜひ3回目接種をご検討ください。2回目から6か月の間隔が空いたに接種券をお送りしています。接種券が届いたら、すぐに予約ができますのでぜひご検討いただきたいです。なお、1、2回目がまだの方も予約を引き続き受け付けております。そして、4回目の接種が始まります。4回目の接種は60歳以上の方、18歳から59歳までで基礎疾患を有する方が対象となります。4回目接種の目的として政府が打ち出しているのが重症化の予防ですので、重症化したときに重篤な影響がある方について4回目接種を開始します。ワクチンは、3回目と同じようにモデルナ社製とファイザー社製となります。接種の間隔は、3回目の接種から5か月以降ということになり、松江市においては、5月末からとなります。3回目接種から5か月が経過した日以降に、対象者に接種券をお送りして予約をしていただくこととなります。接種会場については、集団接種についてはくにびきメッセ、松江市立病院を予定しており、鹿島町、島根町、美保関町、八雲町において集団接種会場を設け、各医療機関でも個別接種できるようにと考えています。接種券は5月31日以降、60歳以上の方に送付します。18歳から59歳の基礎疾患を有する方は接種券の発行の申請が必要となります。具体的な申請方法については、詳細が決まり次第、ホームページ、新聞折り込みなどで改めてお知らせいたします。

次に、「市長への手紙」についてです。「市長への手紙」とは、市民の皆さまから市政に対する意見や質問ご提案などをいただき、それに対して市長から回答するというもので、いただいた意見を市政の運営に反映させることを主眼に置いています。令和3年度は、292件いただいています。内容としては、学習スペースをつかってほしいという学生の方からのご要望、市有施設の通信環境、Wi-Fi等を整えてほしいといった内容がございました。このご意見をいただく手段としては、郵便で手紙をいただくこともできますし、市役所、支所、公民館に専用の、切手不要の用紙を置いています。さらにファクス、松江市のホームページのメールフォームからということになります。これまでいただいたお手紙に個別に回答しておりました。さらに同じ質問を別の方からいただくということもありました。いただいたご意見や松江市の考えを市民の皆さまに知っていただく機会が限られていたことから、その回答を広くホームページ等で公開することとしました。また、公開しやすい形にするためにメールフォームの改定を行っています。もちろん、個人的な話なので公開してほしくないということもあると思いますし、個人が特定されないように一般化した内容で、公開を希望された方についての公表を考えています。こういった形でできるだけ多くの市民の皆さまが市政に対しての関心を持ちご意見、ご質問、ご提案等をいただきたいと考えていますし、またその内容を市民の皆さまにお伝えできるよう工夫をしていきたいと考えています。ぜひ前向きで建設的なご意見・ご提案をいただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

次が、白潟本町通りの整備の方向性についてです。白潟本町通りは、3月に策定した「中心市街地エリアビジョン」では「白潟周辺ゾーン」にあり、歴史・文化を活かした、新たな挑戦が生まれるエリアを目指しています。この白潟本町通りには、都市計画道路の計画があります。これは昭和33年に策定した計画で、実際には何も動いていませんが、道路の整備、まちづくりについてはこれまでも検討を行い、地元の皆さん等にアンケート調査なども行いました。道路の幅11メートルに拡幅し、北向きに常時一方通行にし、歩道幅を確保するという市の素案でアンケ

ートを行い、住民、地権者、沿線の商店の方など27件のご回答をいただきました。一方通行と2車線の対面通行とどちらがよいかという問いに、6割の方が北進一方通行がよいという回答でした。歩道の多目的利用についても、飲食や休憩スペースを念頭にあったほうがよいという回答をいただきました。それを踏まえて、昨年の10月から11月にかけて社会実験を行いました。現行の3.5メートルの道路を3メートルに縮め歩道を広く確保し、キッチンカーを置き、テントを張ってお弁当の販売、夜にはアート空間の演出を行い、たくさんの方に来ていただき、ランチタイムも非常ににぎわった実証実験となりました。その際もアンケートを実施し、住民と沿線事業所の503名の方から回答いただきました。道路の拡幅後も北進一方通行として、歩道を広く設け、歩きやすい白湯本町とすることについて、7割超の方からよいと思うと回答いただいています。来場された329名の方からも回答いただき、車道を1車線として歩道を広くした社会実験について、とてもよかった、あるいはよかったという方が7割を超えていました。一方で、生活の利便性として、バスがあったほうがよいという意見も多くありましたので、バスの運行と歩行者の安全確保を両立するための検討もしてまいりたいと考えています。今後の整備の方向性ですが、道路幅は11メートルに拡幅し、北進の一方通行・1車線というのを基本にした上で、歩道の幅をしっかり確保し、にぎわいのある通りにしていきたいと考えています。今後のスケジュールですが、7月から9月に市民の皆さまからの意見募集をホームページで行います。そして、10月から11月もう一度に社会実験を行います。その結果を検証し今後の方針について決めた上で、来年度から島根県と協議し、都市計画の変更手続を進めます。商店が連続するにぎわいのある通りの実現に向けて、関係者の皆さまと連携してまいりたいと考えています。

次に「MIXPoCははじめました」ということで、この「MIX」というのは後で説明しますが、「PoC」というのは、「Proof of Concept」概念実証という意味で、今回、新しい発想で、この後説明する取り組みを検証していきたいと考え、「MIXPoC」という名前をつけています。昨年度から「MATSUE起業エコシステム」という取り組みを始め、起業・創業を支援するビジネス生態系、エコシステムをつくる取り組みで、産官学金が連携し調査検討をスタートしました。今年度は本格的に実施していく予定で、その取り組みの一つとして、今年の1月に「MIX」というコミュニティを立ち上げました。これは、松江駅前に「煎」というスペースを設け、起業・創業を志す方、あるいは地元企業の方、実際アイデアをお持ちの方がどのようにビジネスを展開していけばいいのかといったことに対する議論・意見交換の場です。「MIX」というのは、松江での持続可能で革新的なコミュニティ「Matsue Innovative Community for Sustainability」の頭文字を取っています。この「MIX」の事務局の中には、松江に縁がある20代から30代の若い方に入っただき、情報収集や仲間づくりのためのイベントをしてまいります。そのほかに、事業の相談を受ける、人や制度の紹介などを行っています。今後はビジネスパートナー、支援機関などの紹介も行ってまいります。今回の、MIXPoCとは、起業・新規事業立案・事業承継等の相談を受ける、あるいはビジネスパートナー・支援機関などを紹介するための取り組みの一つになります。松江市をフィールドとして実証実験やサービス化に今後取り組もうとする方、そしてそのプロジェクト、事業をサポートする仕組みです。アイデアを具体化し、事業の開発・検証し、製品化・量産の段階に入っていくのが一般的な事業開発のスキームかと思いますが、これを支援していくものです。このMIXPoCに採択された方は、このコミュニティからのサポートを一方向的に受けるだけでなく、コミュニティにしっかり入り、ほかの方に対してアドバイスをしたり、事業パートナーを紹介したり、相互に連携していく仕組みと考えていただきたいと思います。例えば仮説を検証して、本当にこれがビジネス化できるか、製品化、量産化できるのかといったことについて、このMIXの構成メンバーと採択者が意見交換をする機

会を設けていくものです。この度、2つのプロジェクトを採択しました。(株)Mondさんと(株)Canvasさんという会社です。5月23日には表敬訪問していただき、事業の紹介もしていただくことになっておりますので、記者の皆さんはぜひお越しください。松江でチャレンジしたい皆さまからのご提案を、このMIXPoCではお待ちしております。松江の創業・起業の機運を高めてまいりたいと考えていますので、アイデアをお持ちの方が大勢いらっしゃると思いますので、ぜひお声がけをいただきたいです。よろしく申し上げます。

最後に、我が島根スサノオマジックが一昨日のクォーターファイナルで、見事勝利を収め、セミファイナルに進出することとなりました。私から申し上げるのもあれですが、松江市民の皆さん、ご声援をお送りいただき、本当にありがとうございました。安藤誓哉キャプテンを中心に、非常にすばらしい試合、私も3試合、観戦し、ハラハラドキドキの場面もありましたが、見事、実力を発揮するすばらしい試合でした。3日間で1万人を超えるブースターの皆さんが、まさにこのTシャツを着用し松江市の総合体育館を青一色に埋めていただき、私もとても感激いたしました。選手の皆さんも、この青のブースターの応援がその後押しになったと言っています。我々も、島根スサノオマジックの活躍にどれほど勇気づけられたかと思います。次はいよいよセミファイナルです。安藤キャプテンが強い覚悟を持って次の琉球ゴールデンキングス戦に臨むと言っておられます。我々も強い覚悟、絶対勝つんだという覚悟を持って応援したいと思っています。必ずチャンピオンシップ制覇をしてくれると固く信じ、皆さんも今週末、テレビの前でぜひ応援の力を貸していただければと思います。私からは以上です。

(BSS) 新型コロナワクチンの4回目接種についてです。ワクチン接種は基本的には努力義務というところだと思いますが、4回目接種に当たって、接種対象者の方に何かメッセージがあればお願いします。

(上定市長) ワクチン接種によって重症化を抑える効果は、政府が実証しており、4回目の接種についても、特に重症化を抑えるという観点で推奨されています。60歳以上の方には努力義務がありますが、18歳から59歳の方にはなく、自己申告という形で接種いただくことになります。特に60歳以上の方は、3回目から5か月経過した後に接種券をお送りいたしますので、3回目までと同様に、できるだけ速やかに予約し接種を受けていただくことをお願いしたいです。

(BSS) 松江保健所の職員募集についてですが、疫学調査等でかなり業務が逼迫している状況だと思っておりますが、これについての受け止めをお願いします。

(上定市長) 松江保健所において、コロナ感染の最前線で、市民の皆さまが安心して暮らせるように、あるいは感染された方が安心して寛解に向かうように努めております。皆さんご存じのとおり、感染者数が30人台の状況が続いており、楽観できる状況ではないと感じています。その中で、保健所の業務が逼迫しており、オール松江市として、ほかの現場で働いている職員を臨時に割り当てています。さらに新規で短期の任用職員を40名募集しています。保健所の多くの業務を限られた人数で行っている状況ですので、ぜひご応募いただければと思います。市民の皆さまに安心して過ごしていただけるよう、必要な体制を速やかに整備してまいりたいと考えています。

(BSS) 今回、募集定員に達した場合、現状と比較してどの程度改善がなされるか、予測されているものがあればお聞かせください。

(上定市長) 市民の皆さまに対するサービスの提供という意味では、非常に人数が逼迫している状況ですが、必要な業務を滞りなく遂行しています。ただ、ご指摘のとおり、1人当たりの負担が非常に重くなってきておりますので、長引くコロナ禍、終わりが見えない状況を踏まえ、職員の健康の維持が当然必要ですので、そのために人数

を増やし、1人当たりの業務負担を軽減することを考えています。

(山陰中央新報) 新型コロナウイルスについて、一時期よりは感染者数が下がり、30人台で推移しています。例えば年代別の変化など、どのように感染状況を分析されていますか。

(上定市長) 感染者数は、先週から比べると減ってきています。ゴールデンウィークの後に増えるということもなく、むしろゴールデンウィーク前に比べると、全体的な感染者数は減っています。ただ、依然として若年層での感染が多い状況に変わりはありません。5月は40歳未満の方で74%、20歳未満で58%を占めています。感染防止の対策が今後変わるわけではなく、今の段階で収束が見えるなど、楽観できる状況にはないというのも事実です。市民の皆さまには引き続き、基本的な感染防止対策を気を緩めず実施していただきたいです。

(山陰中央新報) エリア別の休校を示されましたが、運用されたケースはありましたか。

(上定市長) エリア単位において運用した実績はありません。

(山陰中央新報) ワクチンの4回目接種について、60歳以上の人は5月末以降、5か月経過した方から順次接種券が発送され、それ以外の対象者にも接種券が発行されるということですか。

(上定市長) 18歳から59歳の基礎疾患がある方は、発行の申請をいただいた方に対して接種券をお送りするという流れになります。今後、詳しい段取りが決まりましたら、周知させていただきます。

(山陰中央新報) 今回は60歳以上の方を対象に4回目接種を始めますということですね。

(上定市長) 4回目接種が始まりますということと、対象者は60歳以上と、18歳から59歳の基礎疾患のある方ということアナウンスするのが今回の目的です。

(山陰中央新報) の、接種開始は6月以降になりますか。

(上定市長) 3回目をいつ接種されたかによりますが、基本的には60歳以上の方より後に打たれているはずなので、スタート時期というのは60歳以上の方よりも遅くなります。

(山陰中央新報) 申請の受付はいつぐらいからでしょうか。

(上定市長) 6月に入ってからになります。

(山陰中央新報) 集団接種と個別接種で行うということですか。

(上定市長) そうです。集団接種も行いますし、入所されている方は施設内での集団接種もあります。個別接種も遅れてですがスタートする予定です。

(山陰中央新報) 松江市は、長年、インドと経済交流を続けていらっしゃいます。今年度はその経済交流について、どのような狙いで、どのような取り組みをしていられるか教えてください。

(上定市長) 松江とインドのご縁は、もともと10年前にインド哲学者の権威とされる中村元さんの記念館を八束町に開館するにあたって、在日のインド総領事にお越しいただき、すぐ後に大使も来ていただいたところから始まっています。2013年からは7年連続で、インドに経済視察団を送っています。これは山陰インド協会が中心となっております。私も当時メンバーだったことから、2回ほど訪問しています。インドは今、人口が13億8,000万、中国が14億ぐらいですので、今後、中国を抜くのではないかとされている、非常に大きな人口規模を誇っており、日本の企業にとって、輸出で売上げを上げていく際にはインドとの連携は欠かせないと言われています。7回にわたる経済代表団、視察団との交流によって、松江市内の企業でも、インドとのビジネスマッチングを図り始めているところもありましたが、残念ながらここ数年はコロナ禍ということで交流がしにくい状態になり、何か進捗があったとい

うことではございません。今年、中村元記念館が10周年、中村元博士が生誕110周年という節目の年を迎えています。先般も記念イベントを行いました、10月にもイベントをする予定です。これを一つの契機だと考えていまして、コロナの状況次第ではありますが、海外との往来ができる状況になれば、私のトップセールスも含めて、インドの南部のほうのケララ州と提携、協力関係にありますので、そこを中心に、また、市内の三菱マヒンドラ農機という実際に日印の合弁会社が設立され事業を営んでいるということもありますので、そういったところの訪問等も含めて交流を掘り起こしていきたいと考えています。

(読売新聞) 4回目接種の対象となる人は、何人ぐらいと見込んでおられますか。

(上定市長) 60歳以上の医療従事者と高齢者施設の入所者で2,000人を見込んでいます。7月以降に接種時期を迎える60歳以上の方が6万2,000人と想定しています。

(読売新聞) 18歳から59歳の基礎疾患保有者の見込みはいかがですか。

(上定市長) 一応目安としては、4,000人と考えています。

(読売新聞) 18歳から59歳の基礎疾患の方は、努力義務がなく、発行申請が要ということですが、申請場所は市役所ですか。

(上定市長) そのあたりを調整しているところですので、できるだけ早めに皆さんにお知らせしたいと考えています。

(読売新聞) 4回目接種について、市長としては接種をぜひ進めていってほしいというお考えですか。

(上定市長) 60歳以上の方は接種の努力義務が課されており、ワクチン接種によって重症化リスクが低減されるという政府からの報告もあります。4回目接種を時期がまいましたら受けていただきたいと考えています。

(読売新聞) 18歳から59歳の基礎疾患のある方に対してはいかがでしょうか。

(上定市長) 基礎疾患のある方は重症化リスクがあると言われていきますので、ご自身の判断ということにはなりますが、ご検討いただきたいと考えています。

(読売新聞) スサノオマジックについてですが、改めて松江市にとって今回のスサノオマジックの勝利はどういったニュースだとお考えですか。

(上定市長) 私も松江市長であり、ブースターであり、その中で、松江市民が一体となるすばらしい機会だったと思います。松江に本拠をおくチームが全国で活躍していることは本当に誇りだと改めて感じています。多くの方に実際に体育館にも出かけていただき、そういった機運を盛り上げ、島根スサノオマジックの活躍の後押しできればと思っています。

(読売新聞) スサノオマジックは、松江市にとってどんな存在ですか。

(上定市長) 以前からチームとしてあったわけですが、チャンピオンシップを争うようなチームになったことで、存在感はさらに増していると思います。松江の方はどちらかというと、少し奥ゆかしい面があり、どんどん島根の自慢をしていくということが少ないですが、その中で島根スサノオマジックの大々的な活躍が、我々も頑張っていかなければ、ビジネス面でも全国規模でスサノオマジックのように活躍していきたいという思いに火をつけてもらえるような存在なのではと感じています。

(中国新聞) エリア別の休校事例の運用はなかったということですが、同居人がPCR等を受けている場合の登校の自粛の呼びかけ以降の感染状況との関連、評価をお伺いします。

(上定市長) 全体の感染者数は減ってきている状況ですが、やはり学校・保育施設で感染が起きている状況に変

わりがありませんので、引き続きの感染対策が必要だという認識です。人数だけに惑わされることなく、必要な感染予防対策を一人一人が実行していくことが全体の収束につながっていますので、改めて注意喚起は行いたいと考えています。

(中国新聞) エリア別の休校や同居人がPCRを受けている場合の出校自粛などは、いつまでの予定ですか。

(上定市長) 逆に言いますと、こういう条件になったからやめるということの時期が、明確になっているわけではなく、全体的に判断していく必要があり、今も呼びかけは継続しています。

(中国新聞) ゴールデンウィーク前の呼びかけ直後は、特に大規模校ですと、例えばクラスに陽性者は一人もいなくても、家族・兄弟がPCRを受けているので3分の1以上が欠席しているクラスがあるという話を聞いています。そもそも学習の機会を確保するための施策だと思いますが、結局授業が進まない状況になっています。今、感染状況が落ち着いてきていますが、自粛の要請とはいえ、学校側からPCR検査を家族が受けている場合は出校しないでくださいといった呼びかけがあるのではと推測していて、今後も引き続きこの運用でやっていくのか、自粛要請という形ではなくルール化するのか、その辺についてお聞きかせください。

(上定市長) 島根県の県民性もあると思いますが、協力を依頼すると、それを真摯に受け取り、できるだけ感染が広まらないように、皆さん行動いただき非常にありがたいですし、本当に感謝申し上げるところです。先ほどお伺いした事例については、私も聞いておりまして、やみくもに規制を強めればいいと考えているわけでも、今の自粛要請を続けていけばいいとは考えていません。その時々状況を見ながら、学習の機会が阻害されないような形の運用を考えながら、感染防止対策も施していかなければならず、状況を見ながら柔軟に判断していきたいと考えています。

(NKT) ワクチンのことで、3回目接種のワクチンの種類は選ぶことができますか。

(上定市長) ファイザーでもモデルナでも大丈夫です。

(NKT) 3回目接種の接種率が全国、島根と比べて下回っていますが、松江市としての対応がありますか。

(上定市長) 2回目の接種から6か月後が3回目接種ということになります。松江市は2回目の接種が全国、島根県全体と比べてときには遅かったということがあります。今後、数字が追いついてくるといいますか、その差は徐々に縮小されていくと見込んでいます。

(NKT) 全国的にモデルナのワクチンの廃棄ニュースが出ていますが、松江市の状況は。

(上定市長) 松江市においても、モデルナを接種する方が見込みよりも少ない状況ですので、仮に有効期限を迎えるということになれば、もちろん廃棄せざるを得ないですので、必要な対応をしております。

(NKT) 何か積極的にモデルナ打ってくださいということはありますか。

(上定市長) ワクチン自体はモデルナもファイザーも必要数が確保されています。仮にどちらかが足りない状況になれば、政府にはニーズに応じた要望はしていきますし、すぐに市民の皆さまにもお話をさせていただきます。個人個人でいろいろな考え方がありますので、選択できる形を確保することが市としてすべきことだと考えています。

(TSK) 国の未承認の抗原検査キットについて、今月、販売の自粛要請がありました。松江保健所に何か影響がございましたか。

(上定市長) 松江保健所が影響を受けているということは聞いておりません。

(TSK) 販売自粛要請への松江市としての対応はいかがですか。

(上定市長) 松江市として特段、何か対応しているということはありません。

(BSS) 時間となりましたので、以上で終了します。ありがとうございました。

(上定市長) ありがとうございました。